



3/26-27
TWIN RING
MOTEGI



6/18-19
FESTIKA CIRCUIT
MIZUNAMI



7/9-10
MOBARA
TWIN CIRCUIT



9/17-18
SPORT LAND
SUGO



10/22-23
SUZUKA
CIRCUIT



果敢に戦い、最終戦ダブル入賞で一年を締めくくる

2016年オートボックス 全日本カート選手権 第9戦・第10戦

■開催日：10月22～23日 ■開催場所：三重県・鈴鹿サーキット国際南コース ■天候：曇り ■路面状況：ドライ ■参加台数：24台

2016年の全日本カート選手権KFシリーズ最後の大会が、三重県・鈴鹿サーキット国際南コースで開催された。大会は第1～8戦と同じ2デイ制で、初日にはタイムトライアルが、2日目には第9戦と第10戦の予選・決勝が行なわれた。

大会初日は厚い雲が空を覆う一日となり、タイムトライアルでは三宅が8番手、太田が12番手。ブリヂストン・ユーザーの中では三宅が2番手、太田が5番手で、このポジションから第9戦と第10戦の予選をスタートすることとなった。

大会2日目は空を覆っていた雲が切れ、時折青空が顔を覗かせた。第9戦の予選に先立って行なわれた公式練習は、三宅が8番手、太田が10番手だった。





第9戦 太田格之進：予選18位・決勝リタイア / 三宅淳詞：予選7位・決勝17位

予選ヒート (12周)

三宅はスタート直後にグリッドポジションからひとつ順位を下げたが、前を走る1台がリタイアし8番手に戻った。マシンの手応えは良く、三宅はこの順位で前後と接近戦を続けながら周回を重ねていった。レース終盤にはエンジンに異変を感じるようになったが、1台をパスして順位を上げ、7位でこのヒートをフィニッシュした。

太田もマシンの感触は良好で、スタートグリッドどおりの順位で走行を続けていった。しかし、8周目に前にいたマシンがトラブルのため急減速し、これを避けきれなかった太田は接触によってマシンにダメージを負ってしまう。決勝に極力タイヤを温存することを考えた太田は、この周回の終わりに自らピットロードに入ってリタイアした。

決勝ヒート (24周)

三宅はスタートで6番手に上がり、10台前後が1列に連なった先頭集団に加わって序盤戦を戦った。しかし、この日の気候にキャブレターを上手く合わせることができなかった三宅は、レースが7周目に入った辺りから、エンジンに不調をきたして徐々に順位を下げていく。そして15周目、ついにエンジンが壊れた三宅は第3コーナーでストップし、レースをリタイアした。

太田も三宅と同様に予選から抱えていたキャブレター調節の問題をまだ解消できておらず、それが原因となってエンジンが壊れ3周目でストップ、リタイアに終わった。

2016年全日本カート選手権 KF class 第9戦 リザルト (24台)

Pos.	No.	Driver	Team	Lap
1	34	角田 裕毅	DRAGO CORSE	24
2	4	朝日 ターボ	MASUDA RACING PROJECT	24
3	3	宮田 莉朋	EXPRIT TAKAGI RACING	24
17	31	三宅 淳詞	TOYOTA YAMAHA RT	14
	30	太田 格之進	TOYOTA YAMAHA RT	2

第10戦 太田格之進：予選6位・決勝5位 / 三宅淳詞：予選4位・決勝4位

予選ヒート (12周)

両選手共に第9戦の反省から、より繊細なキャブレター調節を心掛けて第10戦に臨んだ。

三宅はオープニングラップに1台を抜き5番手に上がり、後続を引き連れた状態で序盤戦を消化していった。中盤戦に入ると、三宅は後続を引き離すとともに前のマシンに接近していく。そして1台を抜いた三宅は、4位でフィニッシュした。

太田も得意のスタートを決め、1周目に6つポジションを上げることに成功した。中盤戦には1台の先行を許したが、その相手を逃がすことなく周回を続けていく。そして抜かれた相手を終盤戦で抜き返し、背後に3台を従えたまま6位でチェッカーを受けた。

決勝ヒート (24周)

先の予選でキャブレター調節の課題を克服した両選手は、さらなる飛躍を期して今季最後のレースをスタートした。三宅はポジションキープの4番手で1周目を終了、太田は一つ順位を上げて三宅の真後ろの5番手に着けた。

ここから三宅は4台1列の先頭集団に加わってラップを続けていく。一方、太田は5周目辺りから先頭集団にやや後れを取り始め、レース中盤には7番手に後退した。

三宅はやがてタイヤの磨耗で苦しい走行を強いられるようになったが、それでも前に大きな後れを取ることなく先頭集団を追い続ける。だが、三宅は終盤戦に入ると後方からハイペースで追い上げてきた2台にかわされ、6番手に下がった。

残り2周、先頭集団でアクシデントが発生し、三宅と太田はこのチャンスに5番手・6番手へと浮上した。そして最終ラップ、ふたりは前の1台をそろってパスしてさらにポジションを上げ、三宅が4位、太田が5位でシリーズ最終戦のチェッカーをくぐった。

2016年全日本カート選手権 KF class 第10戦 リザルト (24台)

Pos.	No.	Driver	Team	Lap
1	4	朝日 ターボ	MASUDA RACING PROJECT	24
2	3	宮田 莉朋	EXPRIT TAKAGI RACING	24
3	12	小高 一斗	ADVAN HIROTEX	24
4	31	三宅 淳詞	TOYOTA YAMAHA RT	24
5	30	太田 格之進	TOYOTA YAMAHA RT	24

チーム代表 片岡 龍也 /Tatsuya KATAOKA



今回の太田は、鈴鹿がホームコースの三宅に先行される状況の中でも、それなりに調子を維持していました。レースでは、以前ならズルズルと順位を落としたような局面でもよく踏ん張って、気持ちの強さが見て取れました。第10戦で5位になってこの一年を締めくくってくれたことは、評価に値すると思います。2年目の太田にはプレッシャーもあったはずですが、雨の中でトップタイムを出すなど、たびたびスピードを見せてくれて、去年より確実に成長していました。ただ、そのスピードが上手く結果に結びつかなかったのは、精神面でまだ足りない部分があるからなのかもしれません。三宅は得意なコースでのレースとあって、今回は終始スピードがあるところを見せていました。第9戦ではキャブレター調節に失敗しましたが、その反省を胸に臨んだ第10戦では非常に良いレースをしてくれました。ただし、KFクラスでの経験が少ないせいか、先頭集団の中での走りにはまだ遠慮が感じられました。今年がデビューの三宅には、慣れないKFクラスのマシンに難しさを覚えることも多かったと思うのですが、それなりに良く対応していました。チームの中で物怖じしなかったのも三宅の良いところですね。

今年のトヨタ・ヤマハレーシングチームは、私がこのチームに加わった3年間の中で、一番パフォーマンスを高められた年だったと思います。「100点満点の仕事をして当たり前」と思われる重圧の中で、チームのメンバーは本当に良くやってくれたと感じています。

30 太田 格之進 /Kakunoshin OTA

AGE:17



今回はマシンに何の問題もない状態でレースを迎えることができました。しかし、決勝日の気候に合わせてキャブレターを調節することが難しく、第9戦ではエンジンが壊れてしまいました。第10戦の決勝ではレース前半のペースに対する不安が的中してしまったのですが、後半のペースには自信があって、1台をオーバーテイクできました。チームメイトとブリヂストン・ユーザーの1位と2位になれたことも良かったと思います。

今年はチームやブリヂストンさんが頑張ってくくださったおかげで、良いクルマでレースを戦うことができました。それに、去年に比べて緊張しなくなりました。変なプレッシャーを感じる事がなくなって、レースがとても楽しかったです。精神面、タイヤマネジメントの面など、全ての面で成長できた一年だったと思います。

31 三宅 淳詞 /Atsushi MIYAKE

AGE:17



タイムトライアルからクルマは完璧とっていい仕上がりで、とても乗りやすかったですし、タイヤも最後まで持たせられる感触がありました。それだけに、第9戦でエンジンを壊してしまったことはすごく悔しかったです。第10戦では、第9戦で失敗したキャブレター調節がうまくできるようになって、予選は次に向けて希望が持てるレースになりました。でも、決勝ではタイヤマネジメントが上手くできず、反省の多いレースになってしまいました。

今年もてぎ大会でKFクラスにデビューして、そこでは2位になれたのですが、次の瑞浪大会ではレースのリズムを作ることができませんでした。そこで、レースに対する取り組み方を考え直して、その後のレースに臨みました。その結果、タイヤがすごく持つようになったのは、今年の自分が特に成長できた部分だと思っています。

総合ポイントランキング

- 1.宮田莉朋 (220) 2.朝日ターボ (204) 3.名取鉄平 (172) 4.角田裕毅 (168) 5.高橋悠之 (155) 6.大草りき (134) 7.菅波冬悟 (132)
8.三宅淳詞 (111) 12.太田格之進 (103)